

日本機械学会バイオエンジニアリング部門 第102期第2回 運営委員会 議事録案

日時： 2024年9月8日（日）12:30～14:30

場所： 愛媛大学（第7室）共通講義棟A2階 多目的レクチャー室1, ハイブリッド開催

出席者： 石川 拓司（部門長, 国際ジャーナル委員長）, 中村 匡徳（副部門長, BE36 講演会委員長）, 藏田 耕作（部門幹事）, 東藤 正浩（総務委員長）, 菅原 路子*（総務幹事）, 坂元 尚哉（企画委員長）, 村越 道生（企画幹事）*, 佐藤 克也（広報委員長, 年次大会2024担当）, 荒平 高章*（広報幹事）, 須藤 亮*（渉外委員長, 国際ジャーナル幹事, BE37 講演会委員長）, 牧 功一郎*（次世代委員長, 渉外幹事）, 世良 俊博（分野連携委員長）, 百武 徹（BF35 講演会委員長）, 藤崎 和弘（BF36 講演会委員長）, 矢野 哲也*, 寺島 正二郎*, 築谷 朋典*, 比嘉 昌*, 田地川 勉*, 岩崎 清隆*, 吉野 大輔（学会出版委員）, 亀尾 佳貴*, 松田 昭博（SHD 部門）, 葭仲 潔（ISO・JIS・学会基準委員）, 曾根原*（機械学会）

欠席： 山下 忠紘（次世代幹事, BE37 講演会幹事）, 杉田 修啓（BE35 講演会幹事）, 倉元 昭季（前・次世代幹事）, 大橋 俊朗（年次大会2025担当）, 馬場 創太郎, 坂井 伸朗, 松田 勇, 正本 和人（技術ロードマップ委員）

アドバイザー出席者： 和田 成生*, 中西 義孝*

（*：オンライン出席）

[資料]

- 102-2-00 第102期第2回運営委員会 議案
- 102-2-01 第102期第1回運営委員会 議事録
- 102-2-02 新部門制の概要（部門協議会資料 p25-32）
- 102-2-03 分野連携分科会について（部門協議会資料 p34）
- 102-2-04 フェロー候補者ご推薦のお願い
- 102-2-05 2025年度代表会員候補適任者推薦の依頼（部門）
- 102-2-06 代表会員選挙における信任投票制度の導入について
- 102-2-07 認証不正研究会（仮称）設置提案書と進め方
- 102-2-08 部門ニューズレターNo.53 草稿
- 102-2-09 2024年度部門賞募集案
- 102-2-10 2025年度副部門長選挙日程_最終
- 102-2-11 2025年度代議員数決定ご依頼状
- 102-2-12 2024年度第1回ISO・JIS・学会基準委員会議事録
- 102-2-13 学術誌特集号企画WGについて
- 102-2-14 分野連携企画報告書（2024年4月日韓シンポジウム）
- 102-2-15 2025年度年次大会OS・特別行事企画募集

[審議・承認事項]

1. 部門運営・構成関係

(1) 第102期第1回運営委員会 議事録 [藏田 部門幹事] [資料 102-2-01]

メール審議で議事録が承認され部門HPで公開済みであることが説明された。

(2) 新部門制の概要 [石川 部門長] [資料 102-2-02]

5月23日（木）開催の第1回部門協議会において話された新部門制について説明があった。主な内容は以下の通り。

- ・機械学会は多くの人が集まっている学会なのでそのメリットを活かし、これまでの縦割りの部門制の風通しを良くしていこうということで、改革が進んでいる。
- ・表1について、BE部門は中・大規模の部門タイプ「ML」に分類される。これまで通りの部門賞や代表会員の数を維持できる。
- ・財政的な支援については図2。これまでの交付金は、1/3が活動度係数、1/3が登録人数、1/3が均等割で配られていた。しかし今後は、1/3は均等割のまま、残り2/3は努力目標や部門評価に沿って分配し直されることになる。この点が大きく変わる。そこで、新しい部門評価に沿って、活動していく必要があるだろう。
- ・表3が部門活動の評価方法。「定量評価」で50点、「重点活動評価」で50点の計100点。最高のS評価を得るには70点以上必要(表4)。
- ・「講演会有料参加者数」の数え方は表5の通り。通常の講演会の参加者一般が1点、学生が0.3点、国際会議とコロケーションは1.5点、三年間の合計で0点から3000点をリニアに0~30点に換算する。3000点以上は満点の30点となる。BE講演会、BF講演会で年500人くらい参加があるが、学生は0.3掛けなので目減りする。その分を国際会議や合同企画で積み上げて、なんとか15点以上を取りたい。「事業収支」については支出より収入が上回っていれば満点が付くので、大きいプラスである必要はないが、できるだけプラスにして満点を取りたい。以上から、「定量評価」で30~35点を目指す。
- ・S評価のためには70点以上必要なので、「重点活動評価」で35~40点を獲得する。「部門間交流」については具体的にどのように点が付くのかまだ分からないが、BE部門の規模から考えると頑張っただけ活動している。「2項目以上必須選択(各10点)」の部分については、BE部門が強いところである「国際連携活動」や「他学協会との連携」で20点に近い点を得たい。「自由設定項目」では、若手の会・出藍会の活動が他部門と比較して活発。これらによって「重点活動評価」でも35点くらいまでに近づけるだろうという戦略で運営している。
- ・スケジュールは図4。この新部門制の評価は2023年度からすでに始まっていて、2025年度の終わりに三年間の評価が出てくる。

(3) 分野連携分科会について [石川 部門長]

[資料 102-2-03]

5月23日(木)開催の第1回部門協議会において、分野連携分科会(以前、PSCCと呼ばれたもの)を積極的に設置してほしい旨の依頼があった。

(4) 2025年度フェロー候補者の推薦について [石川 部門長]

[資料 102-2-04]

6月3日にJSME本部からフェロー候補者の推薦依頼があった。三役で協議のうえ、適任者として下記2名(部門推薦1名、一般推薦1名)を推薦することを提案され、運営委員会にてメール審議されて了承された(メール審議にて進めることは前回運営委員会にて了承済み、9月13日(金)推薦締切)。

菅原 路子 先生(千葉大学)、坪田 健一 先生(千葉大学)

(5) 2025年度代表会員候補適任者の推薦について [石川 部門長]

[資料 102-2-05, -06]

6月5日にJSME本部から2025年度代表会員候補適任者の推薦依頼があった。三役で協議のうえ、適任者として下記2名を推薦することが提案され、運営委員会にてメール審議されて了承された(メール審議にて進めることは前回運営委員会にて了承済み、8月13日(火)推薦締切)。なお、お二人のご了承もいただいている。

工藤 奨 先生(九州大学)、中西 義孝 先生(熊本大学)

これまで部門から3名推薦し、会員投票によって2名が選出されていたが、今年から本部のルールが変わって2名推薦し、信任投票のみを行うことになっている。また、これまでBE部門では、歴代部門長から推薦されている。

(6) 認証不正研究会の設置にかかる委員の選出について [石川 部門長]

[資料 102-2-07]

7月4日(木)に法工学専門会議より認証不正研究会の設置について案内があった。自動車メーカーによる認証不正に関して問題点の特定と解決に必要な対策の方向性を考える研究会であり、オンラインで月1回開催し、6か月程度の期間で成果をまとめる予定である。バイオエンジニアリング部門にも委員の推薦依頼があった(7月10日(水)締切)。

分野連携を推進しているので、できることならば推薦したかったが、研究会の内容がBE部門から少し離れており、なんとか推薦できそうな方はすでに他の役目をお願いしていることもあり、今回は委員の選出をお断りさせていただいたという経緯の説明があった。

アドバイザーボードの和田先生より、「BE部門では歴史的に傷害バイオメカニクス研究会を引き継いでいて、衝突安全性などの研究をやっているが、そのようなところからも協力していただけそうにないのか」と、意見が出された。会議後に部門3役で相談し、改めて委員推薦の可能性を模索し、中楯 浩康 先生(信州大学)をお願いすることとした。

(7) 広報委員(メーリングリスト担当)の廃止について [佐藤 広報委員長]

機械学会のインフォメーションメールサービスの開始に伴い、正式なアナウンスはすべてインフォメーションメールにて配信されている。それに伴い、bio-mcメーリングリストへの投稿は減少傾向である。メーリングリスト担当の主な業務は、メーリングリストのアーカイブを部門HPに掲載することと、メーリングリストへの会員の登録・修正・削除を行うことであったが、部門HPへのアーカイブ掲載は前回の部門運営委員会にて廃止が承認された。よって、残りは会員の登録・修正・削除のみであるが、これは年間数件程度であり、2名の委員を専属でつけるほどではないと考えられる。

以上の説明の後、メーリングリスト管理担当は広報委員長・幹事の兼任業務として、専属の委員を廃止することが提案され、了承された。

(8) 部門ニュースレター No.53の発行について [佐藤 広報委員長] [資料 102-2-08]

部門ニュースレターNo.53の草稿が完成したことが報告され、著者校正後、ウェブサイトに掲載する予定なので、内容について確認していただきたい旨、依頼があった。特に意見は寄せられず、内容は承認された。年次大会終了後を目処に部門ホームページに掲載して公開される。

(9) 部門賞の募集 [東藤 総務委員長] [資料 102-2-09]

部門三賞(功績賞、業績賞、瀬口賞)の募集について説明があった。2024年12月16日(月)締切。瀬口賞については応募件数が減少しているので、ふさわしい若手の先生がいれば運営委員から積極的な応募をお願いしたい旨、依頼があった。なお、本件は8月30日にインフォメーションメールで配信済み。また(8)の部門ニュースレターNo.53にも掲載している。

(10) 副部門長選挙について [東藤 総務委員長] [資料 102-2-10]

副部門長選挙について説明があった。すでに9月5日から名簿の確認作業を進められており、以下のスケジュールで実施される。

9月26日(木) 次期副部門長候補者の推薦依頼発信

10月3日(木) 推薦締切

10月17日(木) 第1回投票依頼 Web投票期間10月17日(木)~10月24日(木)

↓投票数の過半数を得る当選者がいない場合

10月29日(火) 第2回投票依頼 Web投票期間10月29日(火)~11月5日(火)

↓投票数の過半数を得る当選者がいない場合

11月7日(木) 第3回投票依頼 Web投票期間11月7日(木)~11月14日(木)

(11) 分野連携企画の募集について [世良 分野連携委員長]

分野連携企画の募集について説明があった。二部門以上が連携し、2025年3月以降に開催される行事が対象。積極的な応募をお願いしたい旨、依頼があった。11月29日（金）締め切り。今のところ個別の企画について分野連携委員長に連絡は届いていないが、例年通り、

- ・マイクロ・ナノ工学部門との分野連携企画
- ・KSME ジョイントシンポジウム（2025年は日本）
- ・ROBOMECH2025 国内会議（山形）

などを申請予定。分野連携委員長にメール連絡した後、企画者本人が分野連携企画書に記入して Web 申請していただきたい。

石川部門長より、「分野連携企画を JSME 本部へ申請して採択されると予算が付くので、人を招へいするときの旅費などに使える。すでに連携して何かを実施している場合はこれを使うとよい」と補足があった。

なお、他の学会との連携企画についても申請できるが、JSME の二部門を含める必要がある。日循との連携については流体工学部門が加わっている。医工学テクノロジー推進会議は他部門を多く含んでいるので、推進会議と連携するとよいという意見が出された。

(12) その他

なし

2. 部門関連行事

(1) 2024 年度年次大会 [佐藤 広報委員長・年次大会 2024 担当]

開催日：2024年9月8日（日）-11日（水）（8日（日）は市民開放行事）

場所：愛媛大学城北キャンパス

	9/8（日）	9/9（月）	9/10（火）	9/11（水）
単独 OS		13:00-14:30 分子・細胞メカニクスとその組織形成・再生医療応用		
単独 OS		14:45-15:45 メカノ×バイオ×情報研究の新展開1 16:00-17:00 メカノ×バイオ×情報研究の新展開2		
合同 OS		14:45-15:45 バイオマテリアルおよび細胞/組織のプロセス・力学・強度1 15:55-16:55 バイオマテリアルおよび細胞/組織のプロセス・力学・強度2		9:00-10:15 流体工学とバイオエンジニアリング
合同 OS		10:10-11:40 マイクロ・ナノ工学とバイオエンジニアリング		10:30-12:00 衝撃波・超音波の医療・産業応用とその現象解明
合同 OS		9:00-10:00 機械工学に基づく細胞アッセイ技術		9:30-10:15 傷害メカニズムと予防
特別行事企画		15:00-16:00 小さな機械の最前線1	10:00-12:00 バイオと材料力学の融合が創出する先端技術	

		16:10-17:10 小さな機械の最前線 2		
特別行事企画			12:50-15:00 JSME・ISEA ジョイントシンポジウム	
日循 WS	15:30-17:00 循環器疾患の治療デバイス・治療法の進展と工学への期待			
その他	12:30-14:30 運営委員会	18:00- 部門同好会 (SHD 部門と合同)	18:30-20:30 全体懇親会	

佐藤 年次大会担当より、OS、特別行事企画、日循 WS について説明があった。

(2) 2024 年度年次大会 特別行事企画：先端技術フォーラム [中西 前部門長]

開催日：2024 年 9 月 10 日 (火) 10:00-12:00

場所：愛媛大学城北キャンパス

バイオと材料力学の融合が創出する先端技術 [バイオエンジニアリング部門、材料力学部門]

- ・総合試験機の開発から食品・医薬品・医療分野への応用展開
(株式会社マルイ 圓井健敏 代表取締役)
- ・材料表面の高精度観察・分析・評価技術がもたらす製品開発サポート
(株式会社パルメソ 松原 亨 代表取締役)
- ・パルスパワーのポテンシャルとクラウドファンディングによる社会実装
(熊本大学 産業ナノマテリアル研究所 浪平 隆男 准教授)

中西 前部門長より、昨年の材力部門長と話し合って合同で企画したので、ぜひご参加していただきたい旨、説明があった。

(3) 第 15-18 回出藍セミナーシリーズ [牧 次世代委員長]

出藍セミナーシリーズ第 15 回「オンライン研究室見学」を 2024 年 8 月 30 日 (木) 18:00-19:00 に実施した。次回は、10 月 4 日 (金)、慶應大学の山下先生が中心となり、論文の書き方、調べ方に関して情報共有するセミナーを開催する予定。

(4) 第 35 回バイオフィロンティア講演会 [百武 BF35 講演会委員長]

日程：2024 年 12 月 14 日 (土)、15 日 (日)

開催地：横浜国立大学

URL：<https://www.jsme.or.jp/conference/biofrconf24/index.html>

実行委員長：百武 徹 (横浜国大)

幹事：白石 俊彦 (横浜国大)

演題登録受付開始 2024 年 7 月 19 日 (金)

演題登録締切 2024 年 9 月 13 日 (金)

講演原稿提出締切 2024 年 11 月 1 日 (金)

参加登録受付開始 2024 年 10 月 4 日 (金)

参加登録締切 2024 年 11 月 28 日 (木)

百武 実行委員長より準備状況について説明があった。

- ・演題登録締切は、9 月 13 日 (金) のところを 24 日 (火) まで延長する予定。
- ・同時開催のバイオフィロンティアシンポジウムに 200~300 人の参加者が見込まれるので、広い講義室のある経済経営学部講義棟を使う予定。随時、ホームページでご連絡していく。

(5) 第 37 回バイオエンジニアリング講演会 [須藤 BE37 講演会委員長]

開催日：2025年5月24日（土）、25日（日）

開催地：慶應義塾大学 日吉キャンパス

実行委員長：須藤 亮（慶應大）

幹事：山下 忠紘（慶應大）

須藤 実行委員長より準備状況について説明があった。

- ・会場として日吉キャンパスの来往舎を予約済み。
- ・実行委員会メンバーが決まり、7/16に第1回実行員会を開催。
- ・HP開設準備中。9月頃にOS募集開始（企画委員会）。

石川 部門長より「前回のBE講演会では、企画委員会の募集するOSのところでは一般講演のセッションがあったが、すべてを口頭発表していただかずに抽選になった。今回はどういう風に取り扱うか？」という旨の質問があった。これに対して、須藤 実行委員長より「予約している来往舎は130人の部屋を2部屋しか準備できない。講義に使っている別の部屋を使えば会場を増やせるが、来年3月中旬以降からしか予約できないので、現時点で確定できない。」と、会場の制約について説明があった。また、坂元 企画委員長より「発表枠をパラレルに増やせばいいが、どうしても制限が出るかもしれない」と発言があり、その場合は、前回口頭発表した人を除いた後で抽選する方法を取るということを事前に告知することが確認された。

(6) 2025年度年次大会 [大橋 年次大会2024担当]

[資料102-2-15]

開催日：2025年9月7日（日）-10日（水）

開催地：北海道大学 札幌キャンパス

大橋 年次大会2024担当に代わり、藏田 部門幹事より説明があった。

- ・2024年8月1日（木）第1回実行委員会がzoom開催された。参加者は、実行委員会委員（部門代表会員を含む）とJSME事務局。
- ・2024年8月30日（金）部門代表会員および関係者に対し、OS、特別行事企画募集のメールが配信された。

OS、特別行事企画募集については誰が集約するのかという確認がなされた。まず、大橋 年次大会2024担当から坂元 企画委員長に宛てて、OS、特別行事企画募集のインフォメーションメールを配信して欲しい旨の依頼を出していただく。その後の企画の集約は坂元 企画委員長が行う。企画の応募そのものは企画者本人がWeb申請して行う。

(7) AP Biomech Conference [石川 部門長]

AP Biomech 2025の開催地はAuckland, NZ（11月頃予定）

AP Biomech 2027の開催地はBali, Indonesia

(8) 第36回バイオフィロントニア講演会 [藤崎 BF36講演会委員長]

藤崎 実行委員長より準備状況について説明があった。開催日について第1、第2候補が決められた。

開催日：第1候補2025年12月6～7日（土日）、第2候補2025年12月13～14日（土日）

開催地：弘前大学（弘前市）

実行委員長：藤崎 和弘（弘前大）

(9) 10th World Congress of Biomechanics [大橋 委員]

大橋 委員に代わり、藏田 部門幹事より説明があった。

第10回バイオメカニクス世界会議

開催日：2026年7月11日（土）～15日（水）

開催地：Vancouver (Canada)

URL : <https://www.wc-biomechanics.org/congresses>

石川 部門長より補足説明があった。

- ・大橋先生に World Council of Biomechanics の組織の中に入れていただいております、大橋先生を窓口にして交渉できる状況である。
- ・APAB (Asian-Pacific Association for Biomechanics) が Yamaguchi medal のセッション、女性研究者のセッションを企画して開催する。
- ・BE 部門としては、前回の第 9 回 WCB (台湾) で JSME セッションを企画した。バイオメカニクス分野で最も大きな会議であるので、今回もぜひ企画したい。European Society of Biomechanics などでは MOU を交わしてすでに企画が動き出しているということで、本部門でも動き出した。しかし、会議を併催にして参加費を共有するなどの予算に絡む学会だけが先行して MOU の話をしていることが分かり、一方、本部門ではそのようなことを考えていないので、スケジュールに余裕ができた。
- ・今のところは、JSME セッションとしていくつの枠を空けておいて欲しいと言えれば良いと思うので、どのようなセッションにするのか (前回と同じか、変えるのか)、年末頃まで検討して欲しいと須藤 渉外委員長に伝えている。

(10) SJB2027 [中村 副部門長]

7th Switzerland-Japan Workshop on Biomechanics

2027 年予定 (候補 9 月 7~10 日), Riederalp

実行委員長 : Bert Muller, Masanori Nakamura

- ・記念賞 (林先生, Meister 先生) の設定について協議予定
- ・上記開催候補日は機械学会年次大会の日程 (例年 9 月第二週) と重なるかもしれないので調整中。

(11) LIFE2024 [藏田 部門幹事]

開催日 : 2024 年 9 月 12 日 (木) ~14 日 (土)

開催地 : 東京大学 本郷キャンパス

URL : <http://www.taikai2024.jslst.org/index.html>

大会長 : 佐久間 一郎 (東京大学・ライフサポート学会)

正宗 賢 (東京女子医科大学・日本生活支援工学会)

高橋 正樹 (慶應義塾大学・日本機械学会)

主担当学会 : ライフサポート学会

(第 39 回ライフサポート学会大会, 第 23 回日本生活支援工学会大会, 日本機械学会福祉工学シンポジウム 2024, の 3 学会の合同大会)

実質的な運営はライフサポート学会。機械学会内では、「機械力学・計測制御部門」「機素潤滑設計部門」「バイオエンジニアリング部門」「ロボティクス・メカトロニクス部門」で輪番対応しており、2024 年度は「機械力学・計測制御部門」の担当である。そのため、バイオ部門からの実行委員メンバーはいない。

(12) その他

なし

3. 共催・協賛・後援行事

(1) 第 15 回最適化シンポジウム [東藤 実行委員長]

開催日 : 2024 年 10 月 26 日 (土), 27 日 (日)

開催地 : 北海道大学工学部

実行委員長 : 東藤 正浩 (北大) 今回は幹事部門

URL : <https://www.jsme.or.jp/conference/optis2024/index.html>

演題登録締切：2024年8月9日（金）→ 9月6日（金）に延期
2年おきに4部門で担当する，BE部門としては実質8年おきに担当。

(2) ICAM 2024 [玉川先生]

玉川先生に代わり，藏田 部門幹事より説明があった。

The 8th International Conference on Advanced Mechatronics (ICAM 2024・第8回先端メカトロニクス国際会議)

開催日：2024年11月6日（水）-8日（金）

6日：ワークショップ

7日：テクニカルセッション，プレナリー，バンケット

8日：テクニカルセッション，アワードセレモニー

開催地：北九州国際会議場

URL：<https://www.jsme.or.jp/conference/icam2024/index.html>

演題登録締切：2024年8月5日（月）→ 8月20日（火）に延期

申し込み状況 総投稿件数 全137件 うち学生 96名（70.0%）

- GS 105件

部門連携

- OS1 (TRANSLOG + IIP) 13件

- OS2 (DMC + SHD) 8件

- OS3 (MNM + BE) 11件 *

* マイクナノ+バイオエンジニアリング+ロボメカの3部門連携のOS「Micro-nano and Bio-Robotics」が開催される。オーガナイザーは山西先生（九大）と繁富先生（北大）。

当初目標の100件を大きく超える投稿をいただいた。ご協力に感謝申し上げます。

(3) ROBOMECH2025 [藏田 部門幹事]

ロボティクス・メカトロニクス講演会 2025

開催日：2025年6月4日（水）-6月7日（土）

開催地：山形ビッグウイング，やまぎん県民ホール

(4) その他

なし

[報告事項]

1. 部門運営関係

(1) 2024年度地区別代議員数の決定について [石川 部門長]

[資料 102-2-11]

5月24日付けにてJSME本部より，代議員推薦希望数を決定して7月12日（金）までに報告するように依頼があった。第1回運営委員会で承認していただいた通り，三役で相談して代議員数を決め，運営委員会にてメール審議して了承された。なお，本部から示された参考数に基づいた数であり，ここ数年は数に変動はなく，去年の代議員と同じ人数である。

(2) 日本機械学会賞等推薦について [中村 副部門長]

7月5日（金）部門締切，8月5日（金）JSME本部締切の日本機械学会賞等について，下記の応募があり，すべてを推薦した。

- ・標準事業表彰 1件
- ・論文賞 3件
- ・奨励賞 1件

特に奨励賞は応募が少ないので、来年度以降、若手に向けて応募を促して欲しいと説明があった。また、標準事業表彰はJSME 会員以外の人をBE 部門から推薦することもできるので、周りに該当する企業の方などがいれば積極的に推薦して欲しいと発言があった。

(3) 部門間連携で必要な費用の負担について [石川 部門長]

予算の状況がこれまでと変わってきている。JSME 本部へ申請するもの、部門の中で渉外委員会や企画委員会に最初から配分しているもの、個別に対応するものなどがあり、交通整理が必要な時期にさしかかっている。

その中で、今回、マイクロ・ナノ工学部門との間の案件をご紹介したい。連携事業として年次大会では部門横断企画が行われている。バイオエンジニアリング部門とマイクロ・ナノ工学部門の部門連携で獲得した予算の一部を講師謝金以外に旅費としても使う予定であるが、旅費のすべてを賄うには足りない。部門にサポートしてもらいたい旨、部門連携WG より要請があった。三役、前部門幹事、新旧の分野連携委員長で相談し、「マイクロ・ナノ工学部門との連携では必要な費用は両部門で折半する」という両部門の合意があるので、不足分を当部門から支援することとした。(→結果として、講師が旅費を辞退され、今回の支出はなかった。)

なお、他の企画については個別に対応している。例えば分野連携企画がスタートする以前から存在する日韓ジョイントOS では、先方のおもてなしに対して相応のことができるように部門として配慮している。また、日本循環器学会とはJSME とMOU を交わした枠組みで連携している。これらに対応するため、渉外委員会と企画委員会に合わせて100万円の予算をつけ、やりくりしていただいている。

部門連携を進める上でこのようなことがますます増えてくると思うので、どこかの段階でルール作りをすべきかもしれない。今の段階では、このように運営しているという情報共有をさせていただいた。

(4) 日本臨床バイオメカニクス学会とのジョイントシンポジウムについて [東藤 座長]

BE 講演会と日本臨床バイオメカニクス学会学術集会でお互いにジョイントシンポジウムを開催している。次は、第51回学術集会(2024年11月1日(金)、2日(土))において、ジョイントシンポジウムの開催が予定されている。本会にご参加予定の先生はぜひご出席いただきたい。

セッション：シンポジウム(日本機械学会とのジョイントシンポジウム)

共催：株式会社ORPHE

日程：2024年11月2日(土) 8:40~10:00

座長：佐浦隆一先生(大阪医科歯科大学)、東藤正浩先生(北海道大学)

演者：田原大輔先生、笹川和彦先生、酒井良忠先生、鶴野裕基先生

(5) 福祉工学協議会の活動について [寺島 委員]

寺島 委員より「福祉工学協議会」の活動と機能移管について報告があった。福祉工学協議会の活動は、ライフサポート学会、生活支援工学会、機械学会のバイオ・ロボメカ・機力などの関連部門の間で調整を図り、合同講演会であるLIFE20XXなどの計画と開催・運営を行うこと。しかし、機械学会内では正式な組織ではなく、任意団体である。

一方、医工学テクノロジー推進会議は機械学会内の部門横断の正式な組織であり、福祉工学協議会の活動や構成メンバーと重複しているところが多い。

「福祉工学協議会」の運営委員会の中で、その機能を「医工学テクノロジー推進会議」に移管してはどうかという協議が行われ、返答を求められた。バイオエンジニアリング部門から出ている担当者および三役で相談して「機能の移管に賛成」の返事をした。

(6) ISO・JIS・学会基準委員会より報告 [葭仲 委員] [資料 102-2-12]

第1回 ISO・JIS・学会基準委員会が6月13日(木)に開催された。主な議事は下の通り。

- 本会は年3回開催
- ISOJIS 基準委員会の規定のご紹介
- 令和6年度産業標準化表彰(経産省)：榊田均さん(元東芝)をご推薦。大臣表彰か局長表彰かをどう選択するかが悩むところがある。貢献に関しては具体的なエビデンス(社会的波及効果であればその数値とか)が求められる。委員長か委員は役職としてご理解いただけるが幹事職はあまりなじみがないらしい(経産省には説明済)。
- ISO各委員会からの報告
- 機械学会標準事業表彰：部門から推薦していただくと部門のアクティビティにもなるので是非。ISO・JIS委員会としても推薦可能。

葭仲 委員より上記内容について説明があり、JSMEの会員でなくても知り合いの企業の方や先生で、ISO、IEC、あるいは実務など標準化についてご活躍の方がいればぜひ表彰推薦していただきたい旨、依頼があった。

(7) 日本機械学会学術誌特集号企画WG委員選出について [石川 部門長] [資料 102-2-13]

JSME本部より学術誌特集号企画WG委員選出依頼があった。本会雑誌(MEJ, 和文誌, MEL)に部門横断特集号を企画するWGの委員であり、任期は2年間。「応用・技術開発に近い論文を集めたい」という本部の要望であった。三役で相談して、小原弘道先生(東京都立大)に就任をお願いし、ご快諾いただいた。

(8) その他

なし

2. 部門関連行事

(1) 講習会関係 [藏田 部門幹事]

(i) 筋骨格モデルによるバイオメカニクス解析入門(倉元 委員)

開催時期：11月後半～12月となる見通し。

中心メンバー：倉元先生、坂本二郎先生、田原先生、茅原先生、中島求先生(SHD部門)

中村 副部門長より、JSME本部は講習会の開催を積極的に増やして欲しいと考えていて、講習の内容をオンデマンドで配信することを構想している。そのための動画サーバーを設置していて、これを今後運用する予定であることが説明された。

(2) その他

なし

3. 各種委員会等活動報告

(1) 企画委員会 [坂元 企画委員長]

なし

(2) 総務委員会 [東藤 総務委員長]

なし

(3) 広報委員会 [佐藤 広報委員長]

なし

(4) 渉外委員会 [須藤 渉外委員長]

[資料 102-2-14]

① 第89回日本循環器学会学術集会(2025/3/28-30)でのジョイントシンポジウム開催：

無事、日循より採択通知。九工大・高嶋委員が座長をおつとめくださり、機械学会からの講演者を選出いただいた。講演者についても、日循・渉外委員会より承認済み。

・座長：高嶋一登先生（九工大）

・講演者：片岡剛之先生（日大）・伊藤一陽先生（農工大）・中村太郎先生（中央大）

② 第35回バイオフィロントニア講演会（2024/12/14-15）でのBFシンポジウム開催：

Vivek Prakash 先生とのやり取りを進めている。

12/12に羽田着、横浜に移動。（マイアミからなので余裕をもって2日前に到着）

※航空券予約後にフライト変更があり、追加でトランジットするトロント空港近隣での宿泊（12/10-11）が必要となった。

・12/14にシンポジウム講演、12/16に牧幹事と京都に移動。

・12/16に京大でセミナー予定。

・12/17または12/18に名工大（中村先生）訪問

・12/18までは関西にいらっしゃる（ホストされたい先生はご連絡ください）

・その後、12/27に羽田発、マイアミへ（18～27日、BE部門からの費用負担はない）。

③ 2024年4月に韓国で開催された日韓シンポジウムの報告書をWeb公開

<https://www.jsme.or.jp/tfcc/uploads/sites/23/2024/08/no59houkoku.pdf>

(5) 若手による次世代戦略委員会 [牧 次世代委員長]

① 第35回バイオフィロントニア講演会（2024/12/14-15）で交流を促す趣旨の企画準備中。景品・茶菓などで予算の残りを使用予定。

② 出藍セミナーシリーズ第15回「オンライン研究室見学」2024年8月30日（木）18:00-19:00を開催済み。次回は、10月4日（金）、慶應大学の山下先生が中心となり、論文の書き方、調べ方に関して情報共有するセミナーを開催する予定。

これに加えて、学生主体の若手の会を企画したいという声が次世代委員会に届いていることが報告された。BE部門の博士の学生を主体にして若手の会を企画したいという話を学生（阪大・出口研・松本さん、都立大・伊井研・津久井さん）からいただいた。博士院生が主体となるので、次世代委員会では金銭的サポートなどをできる限り応援したい。

これに対して、以前、氏原先生、大森先生がポスドク、助教中心の合宿を実施していたことが情報共有された。このときの主体は教員で学生も参加していたが、今回は学生が主体となる。

来年度の予算申請時に企画書をご準備いただける。そのために12月のBF講演会にて参加者の規模を調査しておく予定とのこと。

(6) JBSE 編集委員会 [石川 国際ジャーナル委員長]

今年度も無事にNo.4まで20編以上の論文を出すことができた。AP Biomech マレーシアの特集号も出せた。今後も多くの投稿をお待ちしている。

[その他]

第102期運営委員会開催予定について [藏田 部門幹事]

第1回 幹事会 5月7日（火） Web 会議
運営委員会 5月10日（金） 15:00～17:00 名古屋工業大学（BE36 前日）

第2回 幹事会 8月29日（木） Web 会議
運営委員会 9月8日（日） 12:30～14:30 愛媛大学（年次大会）

第3回 幹事会 12月X日（X） Web 会議

運営委員会 12月13日(金)午後 横浜国立大学(BF35 前日)
会場については横浜駅近くの貸し会議場も含めて検討する。

第4回 第102期・103期合同拡大幹事会

2025年3月27日(木) 13:00~15:00

KDX 飯田橋スクエア JSME 事務局 第三会議室

新委員長、幹事が決まるのは遅めなので、あらかじめ日時を決めて多くの方
にご参加いただけるようにしたい。

以上